

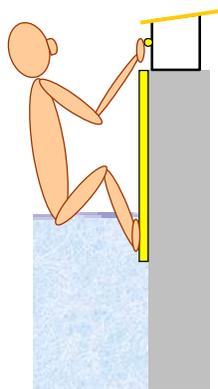
2005競泳競技規則改定の要点

現 行	改 定
	<p>新規 第5条競技役員</p> <p>2 機械審判 (SW2.2)</p> <p>(1) バックアップカメラの審議を含む全自動装置の監督を行う。(SW2.2.1)</p> <p>(2) コンピュータによる記録結果のチェックに責任を持つ。(SW2.2.2)</p> <p>(3) リレーメンバーの交代、引継ぎ記録および引継ぎ違反の審判長への報告について責任を持つ。(SW2.2.3)</p> <p>(4) 引継ぎ違反の確認のため、バックアップに使用したビデオを調査することができる。(SU2.2.4)</p> <p>(5) 競技者の棄権、公式様式への記入結果、樹立された全ての新記録の確定リスト、および得点を整理し、管理しなければならない。(SW2.2.5)</p>
<p>第4条 出発(SW4)</p> <p>2 背泳ぎ・メドレーリレーのスタートは水中から行う。(SW4.2)</p> <p>(3) 出発の合図が発せられる前に競技者はスタート台に向き、<u>両手をスターティンググリップにかけ、両足(足の指を含めた足から先)は水面下に位置する。その場合、水底に立ったり、排水溝に足の指をかけてはならない。</u>(SW6.1)</p>	<p>改正</p> <p>(3) 出発の合図が発せられる前に競技者はスタート台に向き、両手でスターティンググリップを持つ。つま先を含む足の位置は、水面の上下いずれに位置してもよいが、プールのへり、タッチ板の上端、排水溝より上に足の指が出てはならない。(SW6.1)</p>
<p>第7条 背泳ぎ(SW6)</p> <p>4 折返しの動作中は、肩が胸の位置に対して垂直に倒れ、<u>その後は連続した一本の腕のかき、あるいは連続した同時の両腕のかきを、折返しの初期の動作に使用できる。一度でも体が仰向きの状態でなくなったら、いかなる足のけりや腕のかきについても連続した折返し動作の一部でなければならない。</u> <u>足が壁から離れれば、仰向けの姿勢に戻らなければならない。</u>(SW6.4)</p>	<p><改正></p> <p>4 折返しの動作中は、肩が胸の位置に対して垂直以上に裏返しになってもよく、その後は一連の動作としての片腕のかきあるいは同時の両腕のかきを、折返しの初期の動作に使用することができる。 足が壁から離れたときには、仰向けの姿勢に戻っていなければならない。(SW6.4)</p>
<p>第8条 平泳ぎ(SW7)</p> <p>1 スタートと折返しの後の最初の一かきの始まりから、身体はうつ伏せでなければならない。いかなる時でも仰向けになってはならない。(SW7.1)</p>	<p><改正追加></p> <p>1 スタートと折返しの後の最初の一かきの始まりから、身体はうつ伏せでなければならない。いかなる時でも仰向けになってはならない。 <u>競技を通して泳ぎのサイクルは、一回の腕のかきと一回の足のけりをこの順序で行う組合せでなければならない。</u>(SW7.1)</p>
<p>第8条 平泳ぎ(SW7)</p> <p>8 スタートおよび折返し後は、<u>完全に身体が水没した状態で一かきと一けりを行うことができる。この場合、腕と脚の動作が不完全であっても、それは一かき、一けりとみなされる。</u>(SW7.4) 二かき目の両腕が最も幅の広い部分で、かつ両手が内側に向かう前までに、頭の一部は水面上に出なければならない。(SW7.7)</p>	<p><改正追加></p> <p>8 スタートおよび折返し後の一かき目は完全に脚のところまで行うことができ、次の平泳ぎのけりにつながる一回の下方へのドルフィンキックは、身体全体が水没状態の中で許される。 二かき目の両腕が最も幅の広い部分で、かつ両手が内側に向かう前までに、頭の一部が水面上に出なければならない。(SW7.4)</p>
<p>第11条 リレー競技(SW10)</p> <p>4 リレー競技においては、前の競技者が壁にタッチする前に次の競技者の足がスタート台を離れた場合は、そのチームは失格となる。<u>ただし、違反した競技者がも元のスタート地点まで戻ってやり直しをすれば失格にはならない。その際はスタート台の上に戻らなくてもよい。</u>(SW10.9、SW10.10)</p>	<p><改正削除></p> <p>4 リレー競技においては、前の競技者が壁にタッチする前に次の競技者の足がスタート台を離れた場合は、そのチームは失格となる。(SW10.10)</p>

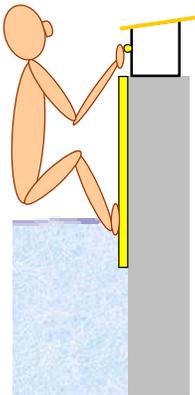
背泳ぎのスタート

つま先を含む足の位置は、水面の上下いずれに位置してもよいが、プールのへり、タッチ板の上端、排水溝より上に足の指が出てはならない。(SW6.1)

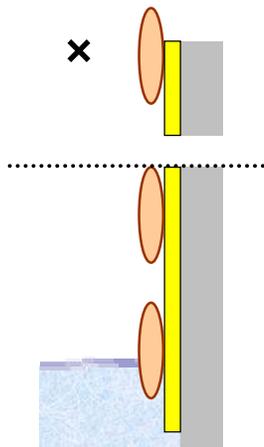
【従来】



【改正後】



×

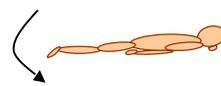
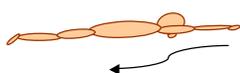
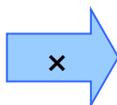


2005年11月 評議員会

平泳ぎのスタート、ターン後の動作

次の平泳ぎのけりにつながる一回の下方へのドルフィンキックは、身体全体が水没状態の中で許される。(SW7.4)

【スタート】

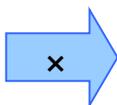
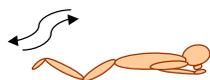


【ターン後】

ドルフィン
下方への動き

手のかき

ドルフィン
下方への動き



平泳ぎのけり

ドルフィン
下方への動き

手のかき
に続く

2005年11月 評議員会